

もりおか歴文館だより

Rekibunkan News Vol. 7
⟨2016.3.1 発行⟩

- ◆平成27年度開催企画展のご報告
- ◆第17回企画展「盛岡の指定文化財～未来へのおくりもの～」を終えて
- ◆歴文館スタッフ伝言板～その六～「ミュージアムショップだより」
- ◆平成28年度インフォメーション



◆豪商 中村家「糸治(糸屋)」の雛人形(江戸後期)

中村家は屋号を「糸治(いとじ)」または「糸屋(いとや)」と称した盛岡城下でも屈指の大店で、主に呉服・古着などを商っていた。中村家の初代治郎八(宗右衛門)は宮守村(現遠野市)の出身で、天明2年(1782)に盛岡で創業したと伝わっており、その後、同家は藩の庇護を受け、特産である紫根染を一手に扱うなど呉服商として着実な成長を遂げた。

旧新穀町にあった中村家住宅は、昭和46年(1971)に国重要文化財に指定され、現在は盛岡市中央公民館(愛宕町)の敷地内に移築・復元されている。

中村家に伝わる雛人形の多くは江戸時代末頃に京で買い求められたものと伝えられている。その多くは古今雛に該当し、内裏雛のほか、歌聖と謳われた山部赤人、柿本人麻呂、六歌仙など平安時代の歌人を模した人形など、豪商にふさわしい節句人形・雛道具が現在も残されている。

※雛人形の一部はテーマ展「ひな人形展」(2/17~4/18)にて展示しております。

◆平成27年度開催企画展のご報告

◆第15回企画展

「旅の枝折 ～みちのく観光のみちしるべ～」 2015年4月25日(土)～6月15日(月)

「旅」をテーマに、観光客の皆様が盛岡(盛岡藩領)を旅する時のヒントを得てもらうとともに、盛岡に住む人にとって新たな盛岡の魅力を再発見してもらうことを目指して開催しました。

実際に江戸時代に使われた旅道具や旅装束をはじめ、盛岡藩領を旅した人々の足跡を示す資料を中心に、当時の旅事情を紐解くと共に、盛岡藩領の「見どころ」を様々な資料から紹介。関連講座「史料から読み解く江戸時代の旅」やイベント「手作り草履で盛岡城散策」を開催し、大勢の皆様にご参加いただきました。



◆第16回企画展

「あの日あの時の盛岡 ～なつかしの昭和～」 2015年7月25日(土)～9月27日(日)

どこかなつかしいイメージが湧く「昭和」という時代。本展では昭和20年代から50年代の「小学生の日常」をテーマに「くらし」「まなび」「あそび」に関わる日常生活で使用していた道具、テレビ・冷蔵庫・洗濯機などの電化製品、小学校の教科書や文房具・おもちゃなどを当時の写真を交えて紹介しました。また、展示室内には小学校の教室を再現！

ワークショップ「図工の時間～手作りおもちゃで遊ぼう～」では、夏休み期間中ということもあり、多くの子ども達の姿で賑わいました。



第17回企画展「盛岡の指定文化財～未来へのおくりもの～」を終えて

学芸員 福島茜

もりおか歴史文化館では、平成27年11月21日から、翌28年1月31にかけて企画展「盛岡の指定文化財～未来へのおくりもの～」を開催いたしました。私たち盛岡市民の身近にある盛岡市内の指定文化財を展示し、改めて盛岡の文化財について知り、さらに興味を深めて頂くきっかけになればと開催したものです。

第1章では「町なかの指定文化財」というテーマを設け、盛岡の町のなかで見られる建造物や天然記念物、無形民俗文化財に関わる資料や、城下町盛岡の商家である木津屋(株式会社木津屋本店)で受け継がれてきた、火消用具などをご紹介しました。また、工事中の上ノ橋から取り外された擬宝珠も展示する機会に恵まれ、普段とは少し違った環境でご覧いただいたことで、ご来場者の皆さんにも新たな魅力を発見していただけたようでした。

第2章は「南部氏ゆかりの品々」と題して、盛岡藩の政治と藩主南部家に関わりの深い指定文化財をご紹介しました。盛岡藩の家老席日誌である「盛岡藩雑書」は、盛岡藩の法政、物産、自然現象や庶民の生活に関わることまで、非常に幅広い内容を記した歴史資料ですが、普段あまり文字資料に興味を持たれない方も、厚いものでは30cm近くなるその厚さや内容の幅広さなどに驚かれ、興味を持たれたご様子でした。

「金属工芸の名品」と題した第3章では、盛岡藩を代表する工芸品である南部鉄器や刀剣を中心にご紹介しました。刀剣ブームの影響もあってか、アンケート結果からは、若年層や女性のなかに印象に残った資料として刀剣や拵えを挙げる方が多い結果となりました。



「文化財保護と信仰」というテーマを設定した第4章では、「多賀神楽」という現在では途絶えてしまった神楽を描いた絵額や経塚出土の壺、仏像など、様々な種類の信仰に関わる資料をご紹介しました。「オシラ神」(個人所有・盛岡市都南歴史民俗資料館収蔵)は、東北各地で見られる主に個人宅で祀られる男女一対の神像ですが、盛岡市周辺ではあまり所在が確認されておらず、盛岡に「オシラ様」があるということに、多くの方が驚かれていました。

盛岡市内に所在する指定文化財約300件に対して、今回の企画展で展示した資料は約30件。全体から見ればほんの一部に過ぎませんが、ご来場いただいた皆様には少しでも、文化財の素晴らしさを感じて頂けていればと思います。

今回ご覧いただいたような文化財を私たちが目にできるのは、それらを今まで守り伝えてきた先人たちの努力の賜物です。今回の企画展が、これらの文化財をまた少し先の時代に贈る「未来へのおくりもの」にするための一助となっていました。



企画展示室内



ギャラリートークの様子

歴文館スタッフ伝言板～その六～ 「ミュージアムショップだより」 ミュージアムショップ担当 坂本弘子

旅行先で誰もがふと立ち寄ってしまうのは、その土地の歴史に育まれた文化を感じることが出来るお店ではないでしょうか。お土産を選ぶ楽しさや、地元の方とのかすかな触れ合いなどは旅の醍醐味の一つかもしれません。一方で、純粹に歴史を感じるため、観覧するためだけに当館に来館なさったお客様の中にも何か記念にとショップにお立ち寄りくださる方も少なくありません。一階部分が主に観光客や市民の方のための無料スペース、2階部分が博物館という構成で作られている当館のミュージアムショップでは、ショップ商品をどの方々に向けた商品をご用意すれば良いのかと、開館以来間もなく5年目を迎えるころになっても、試行錯誤は続いています。幅広いお客様それぞれに想いを馳せ、担当者の楽しい悩みは尽きることがありません。ついには、館の職員全員を巻き込んだ、ショップ商品を考えるプロジェクトなるものまで出現しました。桜の便りが聞こえ始めるころには、また少し進化したショップをお披露目できるかと思います(*^_^*)

ところで、商品を提供させていただくだけではなくショップには、重要な役目があります。それはお客様への『おもてなし』です。

全国各地からいろいろなお客様が見えています。中には団体バスに乗せられて来てみたらここだったよ、などというホロ酔いのお客様も。そしていつもお見えくださる市民の方々。考えてみればご来館者の数だけ、ご来館の理由があるものです。来館してくださるそれぞれのお客様のご都合や、体調や、心や気持ちの明暗など、お待ちしている私たち職員には推し量る事しかできません。楽しみにいらしたお客様にはもっと楽しい気持ちになっていただき、期待もせずに来館したよというお客様には、来てよかったよ、と。歴史に触れ、文化に触れ、そして私たちと心のふれあいがもてたなら、当館のファンになってくださる方がもっともっと多くなってくれますね、きっと…。

いろいろなお客様のことを、すべてさりげなく心にとめて、せめて笑顔で。いつも笑顔で。思い切り笑顔で。それが当館流の「おもてなし」と言い切れるようになれるといつも思っています。



当館オリジナルグッズ「イワテノホウゲンTシャツ」

◆平成28年度インフォメーション

【企画展】

「盛岡南部の生き方・第一部

—乱世を切り抜けた南部家と盛岡のはじまり—

会期:2016年4月29日(金・祝)~7月3日(日)

盛岡南部家の歴代当主の実態を掘り下げることで、盛岡の「お殿様」の実像に迫るとともに、改めて盛岡の歴史を辿ります。今回は南部信直・利直・重直・重信4代の、戦国時代から江戸時代に向かう転換期に焦点をあて、「盛岡」のルーツを探ります。

なお平成29年度に第2部を、平成30年度に第3部を開催予定です。



「南部鉄器 —時代を超えた鐵の美—」

会期:2016年7月31日(日)~11月3日(木・祝)

岩手県を代表する伝統工芸品であり、国内だけではなく国外からも注目されている「南部鉄器」。本展では、主に盛岡藩で発展を遂げた南部鉄器について取り上げ、その伝承されてきた技から生み出された美を藩政時代から現代にかけての作品を中心に紹介します。

現在も伝統の技術を守り、新たな美を追求し続ける「南部鉄器」を通じ、岩手・盛岡における鉄文化・工芸の魅力を感じてください。



「老松釜」(4代小泉仁左衛門清光 作)

「ひな祭り」

会期:2017年1月21日(土)~3月5日(日)

「ひな祭り」は、古来中国の「上巳の節句」と平安時代中頃の宮中の子ども達の「ひいなあそび」と呼ばれる人形遊びが結びついた行事です。江戸時代中頃には、雛人形を飾り、女児の健やかな成長を祈る行事として庶民に広く親しまれるようになりました。

雛人形、雛道具を愛で、ひと足早く春をお楽しみください。



【テーマ展】

◆端午の節句 五月人形展	4/20(水)~ 5/16(月)
◆金の山・鉄の山	5/18(水)~ 7/18(月)
◆競技 一盛岡藩のわざくらべ	7/20(水)~11/14(月)
◆日を読む・南部絵暦	11/16(水)~ 2/20(月)
◆伝家の宝刀	2/22(水)~ 4/17(月)

※企画展・テーマ展はいずれも、歴史常設展示室の入場券でご覧いただけます

※タイトル・内容などは予告なく変更される場合があります。

ご利用案内

〈開館時間〉4月~10月 9:00~19:00(2階歴史常設展示室への入場は18:30まで)
11月~3月 9:00~18:00(2階歴史常設展示室への入場は17:30まで)

〈休館日〉毎月第3火曜日(祝・休日の場合は翌日) 12月31日~1月1日

※2016年9月の第3火曜日(9/20)は開館します。9月27日(火)が休館日となり、9月26日(月)、28日(水)は2階展示室が休室となりますのでご留意ください。

〈入館料〉入館は無料です。

	個人	団体(20人以上)
2階(歴史常設展示室)のみ有料となり、	100円	80円
右記の入場料が必要となります。	200円	160円
一般	300円	240円

○障がいをお持ちの方やその介護をなさる方(付添いを含めて2人までは)は、無料で入場できます。

○盛岡市在住で65歳以上の方は、入場料が免除されますので、係員に各種保険証等をご提示ください。

○盛岡市内の学校に就学している小・中学生の方は、入場料が免除されます。

○企画展をご覧になる場合は、別途入場料が必要となる場合があります。

〈交通の案内〉 ●電車をご利用の場合:JR盛岡駅下車 歩歩20分
●バスをご利用の場合:盛岡駅東口から「盛岡バスターミナル」行き、または「でんでんむし」に乗り約10分、「県庁・市役所前」下車、徒歩約4分
●お車をご利用の場合:盛岡IC・盛岡南ICから車で25分
※当館の敷地内に一般車両の駐車スペースはございません。隣接する「盛岡城跡公園地下駐車場」(有料)など近隣の駐車場をご利用ください。



もりおか歴史文化館

Tel:020-0023 盛岡市内丸1番50号
Fax:019-681-2100 http://www.morireki.jp/